

運輸安全マネジメントに関する取り組み

北港観光バス株式会社では、安全・安心・快適な輸送を確保するため、経営トップ以下全社員一丸となって取り組んでまいります。

1. 輸送の安全に関する基本的な方針

弊社では、「安全宣言」を定め、輸送の安全確保をより強固なものとするために、運輸安全マネジメントに関する取り組みを定義しております。

安全宣言

我が社は、伝統あるサービスを基に、お客様の安全輸送と従業員及び家族の幸せを目指し、次の事項を実施します。

- 一 関係法令を遵守し、お客様の安全確保が最優先であるという意識を徹底する。
- 二 輸送の安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行う。
- 三 輸送に関する危険の予知能力を高め、必要な予防措置を講じる。
- 四 輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、必要な情報を伝達、共有する。
- 五 輸送の安全に関する教育及び研修を積極的に実施する。

また、安全スローガンを策定し、安全な輸送について具体的に意識付けを行っております。

安全スローガン

- 一 バックする 見えない死角に 何かある
- 二 安全は 常に「基本」の 積み重ね

安全宣言及び安全スローガン等は各営業所及び本社に掲示するとともに、点呼執行の際、運行管理者と乗務員の双方が安全に関する方針を確認しております。

2. 輸送の安全に関する目標及び実績

(1) 2018年度輸送の安全に関する目標と実績

- ・目標 事故発生件数を前年に発生した事故件数の24.7%削減
- ・実績 目標未達成

(2) 2019年度輸送の安全に関する目標

- ・目標 事故発生件数を前年に発生した事故件数の11.4%削減

この目標を達成するために、下記の事項について特に重点的に実行します。

- ・安全管理責任者が側乗し、乗務員と共に危険箇所と接遇を再確認
- ・安全快適な運転で一流のサービスを提供しよう。
思いやりの運転で事故防止。
- ・ドラレコを活用し、ヒヤリ・ハットポイントを研修する。

3. 自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計（2018年度）

- ・0件 重大事故等の発生はありません。

4. 安全管理規程

【別紙①】「北港観光バス株式会社 安全管理規程」の通り

5. 輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置

- ・衝突被害軽減ブレーキ搭載車の導入
- ・ドライブレコーダーの導入（全車両導入済み）
→乗務員の安全運転意識向上効果があり、具体的な交通安全教育に活用しています。
- ・デジタルタコグラフの装着（全車両装着済み）
→運行記録を素早く正確に解析でき、安全運行のためのきめ細かな指導が可能です。
- ・ITを活用した高性能なアルコール検知器の導入
→アルコールチェック体制の厳格化を図っています。



営業所に設置する据置型検知器では、カメラを設置し、数値と共に画像もデータ管理しています。

宿泊先など遠隔地でのアルコール検査では、アルコール値だけでなく、接続したスマートホンのカメラ画像で乗務員の顔色や表情を同時に確認し、運行管理に役立てています。

- ・貸切バス安全性評価制度 一ツ星認定

→貸切バス事業者の安全性や安全の確保に向けた取り組み状況について評価・認定される制度です。公益社団法人日本バス協会に申請し審査を受けます。貸切バス利用者からは貸切バスの安全性を客観的にご選択いただく基準のひとつとなり、貸切バス事業者にとっては、より安全なバスサービスの充実・維持に取り組む指標となっています。

弊社では、2017年度に一ツ星認定を受けております。



弊社の貸切バス車両には
シンボルマークを掲出し
ています。

6. 輸送の安全に係わる情報の伝達体制その他の組織体制

【別紙②】「安全管理体制図」

【別紙③】「事故・災害等に関する報告連絡体制図」

7. 輸送の安全に関する教育及び研修の実施状況

- ・安全管理委員会（営業所単位で実施・月1回）
- ・合同安全管理委員会（全社で実施・月1回）
- ・安全統括管理者、役員による職場巡回（随時）
- ・ドライブレコーダーやデジタルタコグラフに基づく教育指導
- ・睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査の実施
- ・飲酒検知器による厳正な始業点呼及び終業点呼の実施
- ・「事故や災害を想定した教育訓練」「エコドライブ講習」等乗務員研修会の実施
- ・交通安全運動期間における重点的活動の実施
全国交通安全運動（春・秋）、車内事故防止キャンペーン（7月）、
大阪府無事故無違反チャレンジコンテスト（10月～3月）等

8. 安全統括管理者に係わる情報

安全統括管理者 専務取締役 佐野 健二

目次

- 第一章 総則
- 第二章 輸送の安全を確保するための事業の運営の方針等
- 第三章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の体制
- 第四章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の方法

第一章 総則

(目的)

第一条 この規程（以下「本規程」という。）は、道路運送法（以下「法」という。）第22条の2及び第2項の規定を参考とし、輸送の安全を確保するために遵守すべき事項を定め、もって輸送の安全性の向上を図ることを目的とする。

(適用範囲)

第二条 本規程は、当社の一般旅客自動車運送事業に係る業務活動に適用する。

第二章 輸送の安全を確保するための事業の運営の方針等

(輸送の安全に関する基本的な方針)

第三条 社長は、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社内において輸送の安全の確保に主導的な役割を果たす。また、現場における安全に関する声に真摯に耳を傾けるなど現場の状況を十分に踏まえつつ、社員に対し輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底させる。

2 輸送の安全に関する計画の策定、実行、チェック、改善（Plan Do Check Act）を確実に実施し、安全対策を不断に見直すことにより、全社員が一丸となって業務を遂行することにより、絶えず輸送の安全性の向上に努める。また、輸送の安全に関する情報については、積極的に公表する。

(輸送の安全に関する重点施策)

第四条 前条の輸送の安全に関する方針に基づき、次に掲げる事項を実施する。

- 一 輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守すること。
- 二 輸送の安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行うよう努めること。
- 三 輸送の安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じること。
- 四 輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有すること。
- 五 輸送の安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、これを適確に実施すること。

- 2 持ち株会社及び傘下のグループ企業が密接に協力し、一丸となって輸送の安全性の向上に努める。
- 3 下請事業者を利用する場合にあっては、下請事業者の輸送の安全の確保を阻害するような行為を行わない。更に、下請事業者と長期契約を結ぶ等の密接な関係にある場合は、可能な範囲において、下請事業者の輸送の安全の向上に協力するよう努める。

(輸送の安全に関する目標)

第五条 第三条に掲げる方針に基づき、目標を策定する。

(輸送の安全に関する計画)

第六条 前条に掲げる目標を達成し、輸送の安全に関する重点施策に応じて、輸送の安全を確保するために必要な計画を作成する。

第三章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の体制

(社長等の責務)

第七条 社長は、輸送の安全の確保に関する最終的な責任を有する。

- 2 経営トップは、輸送の安全の確保に関し、予算の確保、体制の構築等必要な措置を講じる。
- 3 経営トップは、輸送の安全の確保に関し、安全統括管理者の意見を尊重する。
- 4 経営トップは、輸送の安全を確保するための業務の実施及び管理の状況が適切かどうかを常に確認し、必要な改善を行う。

(社内組織)

第八条 次に掲げる者を選任し、輸送の安全の確保について責任ある体制を構築し、輸送の安全を確保するための企業統治を適確に行う。

- 一 安全統括管理者
- 二 運行管理者
- 三 整備管理者
- 四 その他必要な責任者

- 2 管理本部長は、安全統括管理者の命を受け、輸送の安全の確保に関し、管内営業所長を統括し、指導監督を行う。
- 3 営業所長は、管理本部長の命を受け、輸送の安全の確保に関し、営業所内各課を統括し、指導監督を行う。
- 4 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統については、安全統括管理者が病気等を理由に本社に不在である場合や重大な事故、災害等に対応する場合も含め、別に定める組織図による。

(安全統括管理者の選任及び解任)

第九条 取締役のうち、旅客自動車運送事業運輸規則第47条の5に規定する要件を満たす者の中から安全統括管理者を選任する。

2 安全統括管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該管理者を解任する。

- 一 国土交通大臣の解任命令が出されたとき。
- 二 身体の故障その他のやむを得ない事由により職務を引き続き行うことが困難になったとき。
- 三 関係法令等の違反又は輸送の安全の確保の状況に関する確認を怠る等により、安全統括管理者がその職務を引き続き行うことが輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。

(安全統括管理者の責務)

第十条 安全統括管理者は、次に掲げる責務を有する。

- 一 全社員に対し、関係法令等の遵守と輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底すること。
- 二 輸送の安全の確保に関し、その実施及び管理の体制を確立、維持すること。
- 三 輸送の安全に関する方針、重点施策、目標及び計画を誠実に実施すること。
- 四 輸送の安全に関する報告連絡体制を構築し、社員に対し周知を図ること。
- 五 輸送の安全の確保の状況について、定期的に、かつ必要に応じて、随時、内部監査を行い、経営トップに報告すること。
- 六 経営トップ等に対し、輸送の安全の確保に関し、必要な改善に関する意見を述べる等必要な改善の措置を講じること。
- 七 運行管理が適正に行われるよう、運行管理者を統括管理すること。
- 八 整備管理が適正に行われるよう、整備管理者を統括管理すること。
- 九 輸送の安全を確保するため、社員に対して必要な教育又は研修を行うこと。
- 十 その他の輸送の安全の確保に関する統括管理を行うこと。

第四章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の方法

(輸送の安全に関する重点施策の実施)

第十一条 輸送の安全に関する基本的な方針に基づき、輸送の安全に関する目標を達成すべく、輸送の安全に関する計画に従い、輸送の安全に関する重点施策を着実に実施する。

(輸送の安全に関する情報の共有及び伝達)

第十二条 経営トップと現場や運行管理者と運転者等との双方向の意思疎通を十分に行うことにより、輸送の安全に関する情報が適時適切に社内において伝達され、共有されるように努める。また、安全性を損なうような事態を発見した場合には、看過したり、隠蔽したりせず、直ちに関係者に伝え、適切な対処策を講じる。

(事故、災害等に関する報告連絡体制)

第十三条 事故、災害等が発生した場合における当該事故、災害等に関する報告連絡体制は別に定めるところによる。

- 2 事故、災害等に関する報告が、安全統括管理者、経営トップ又は社内の必要な部局等に速やかに伝達されるように努める。
- 3 安全統括管理者は、社内において報告連絡体制の周知を図るとともに、第一項の報告連絡体制が十分に機能し、事故、災害等が発生した後の対応が円滑に進むよう必要な指示等を行う。
- 4 自動車事故報告規則（昭和二十六年運輸省令第百四号）に定める事故、災害等があった場合は、報告規則の規定に基づき、国土交通大臣へ必要な報告又は届出を行う。

（輸送の安全に関する教育及び研修）

第十四条 第五条の輸送の安全に関する目標を達成するため、必要となる人材育成のための教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、着実に実施する。

（輸送の安全に関する内部監査）

第十五条 安全統括管理者は、自ら又は安全統括管理者が指名する者を実施責任者として、安全マネジメントの実施状況等を点検するため、少なくとも一年に一回以上、適切な時期を定めて輸送の安全に関する内部監査を実施する。

また、重大な事故、災害等が発生した場合又は同種の事故、災害等が繰り返し発生した場合その他特に必要と認められる場合には、緊急に輸送の安全に関する内部監査を実施する。

- 2 安全統括管理者は、前項の内部監査が終了した場合はその結果を、改善すべき事項が認められた場合はその内容を、速やかに、経営トップに報告するとともに、輸送の安全の確保のために必要な方策を検討し、必要に応じ、当面必要となる緊急の是正措置又は予防措置を講じる。

（輸送の安全に関する業務の改善）

第十六条 安全統括管理者から事故、災害等に関する報告又は前条の内部監査の結果や改善すべき事項の報告があった場合若しくは輸送の安全の確保のために必要と認める場合には、輸送の安全の確保のために必要な改善に関する方策を検討し、是正措置又は予防措置を講じる。

- 2 悪質な法令違反等により重大事故を起こした場合は、安全対策全般又は必要な事項において現在よりも更に高度の安全の確保のための措置を講じる。

（情報の公開）

第十七条 輸送の安全に関する基本的な方針、輸送の安全に関する目標及び当該目標の達成状況、自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計、輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統、輸送の安全に関する重点施策、輸送の安全に関する計画、輸送の安全に関する予算等実績額、事故、災害等に関する報告連絡体制、安全統括管理者、安全管理規程、輸送の安全に関する教育及び研修の計画、輸送の安全に関する内部監査結果及びそれを踏まえた措置内容については、毎年度、外部に対し公表する。

- 2 事故発生後における再発防止策等、行政処分後に輸送の安全の確保のために講じた改

善状況について国土交通省に報告した場合には、速やかに外部に対し公表する。

(輸送の安全に関する記録の管理等)

第十八条 本規程は、業務の実態に応じ、定期的に及び適時適切に見直しを行う。

- 2 輸送の安全に関する事業運営上の方針の作成に当たっての会議の議事録、報告連絡体制、事故、災害等の報告、安全統括管理者の指示、内部監査の結果、経営トップに報告した是正措置又は予防措置等を記録し、これを適切に保存する。
- 3 前項に掲げる情報その他の輸送の安全に関する情報に関する記録及び保存の方法は、運行部コントロールプレイス営業所において紙媒体で行い、保存期間は3年間とする。

付 則

本規定は平成25年12月21日より適用する。

安全管理体制図

指令命令経路
報告連絡経路



